

ワークショップ1

「好酸球性消化管疾患の診断と治療の現状」

司会 三輪 洋人（兵庫医科大学内科学消化管科）
岩切 勝彦（日本医科大学消化器内科学）

好酸球性消化管疾患（EGIDs）は、食物等に対するアレルギー反応が主因となって、好酸球が消化管壁局所に異常集積することにより、組織が傷害され、機能不全を起こす疾患の総称であり、好酸球が食道に限局する好酸球性食道炎と小腸・大腸を中心に全消化管に傷害を起こす好酸球性胃腸炎に分類される。2015年にEGIDsは厚生労働省の指定難病となり、EGIDsに関する研究が進んできている。本ワークショップでは、EGIDsの診断と治療の現状についての報告とその課題について発表していただきたい。